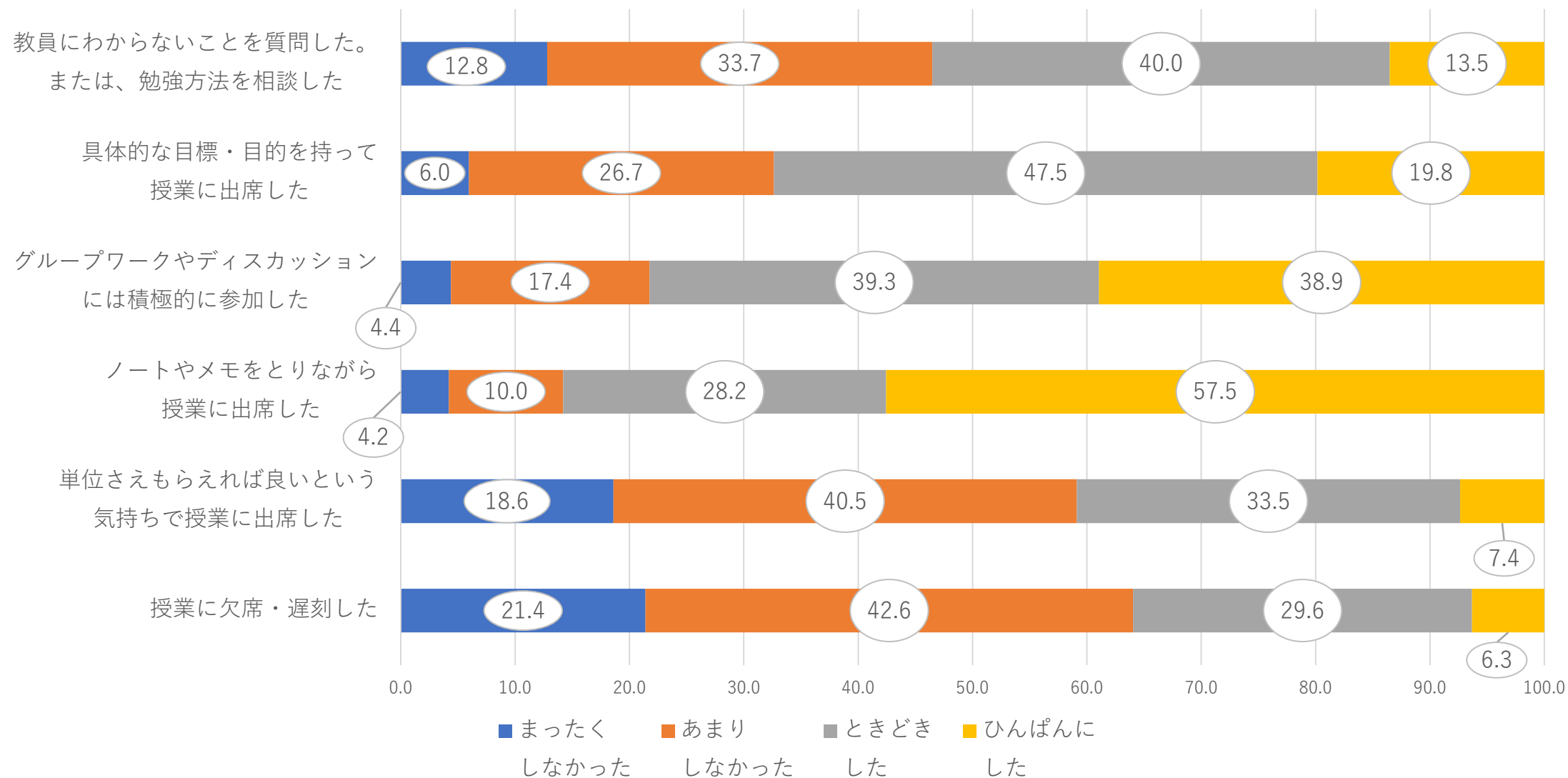


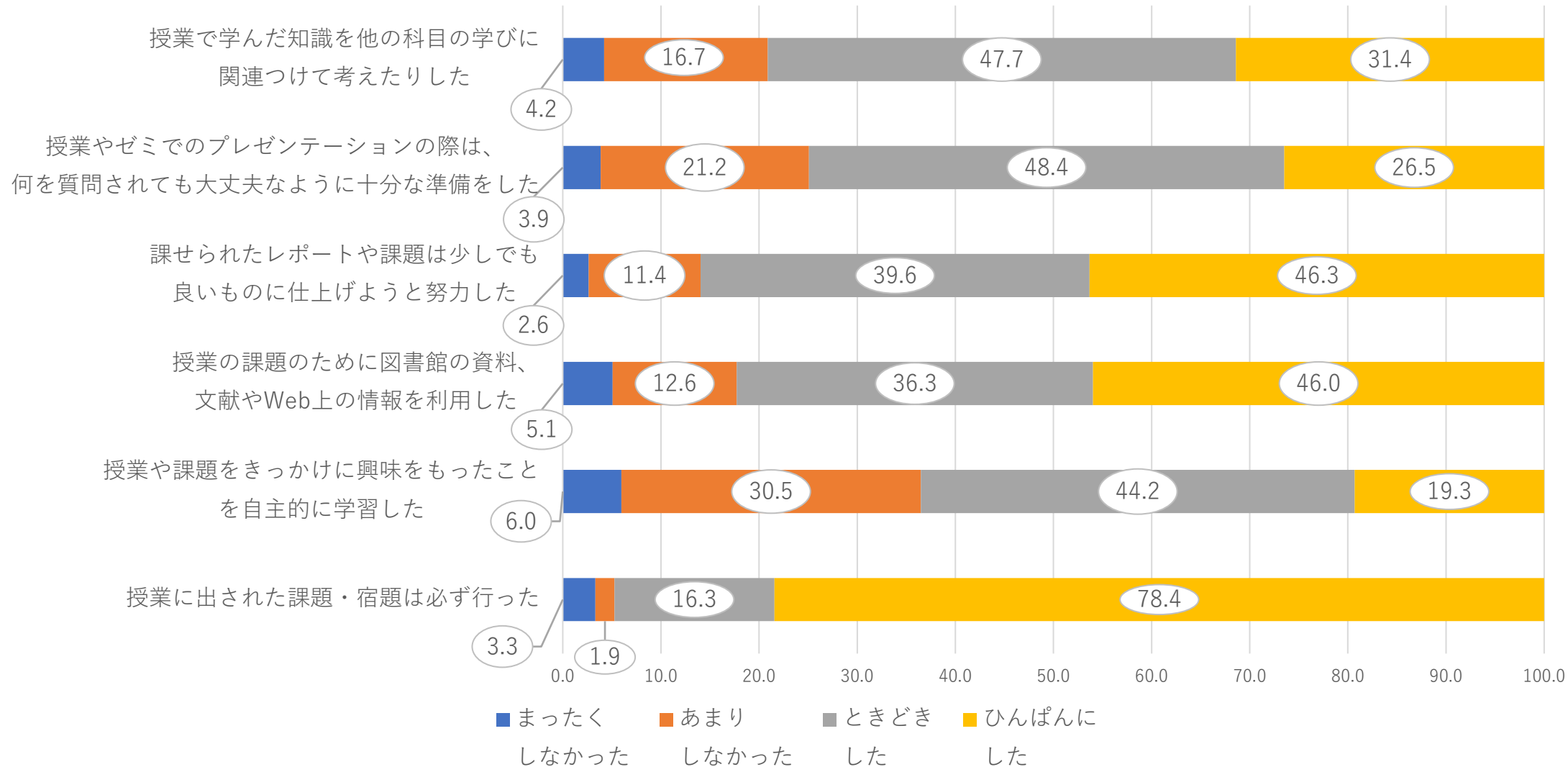
【保健学部】

2024. 卒業時アンケート

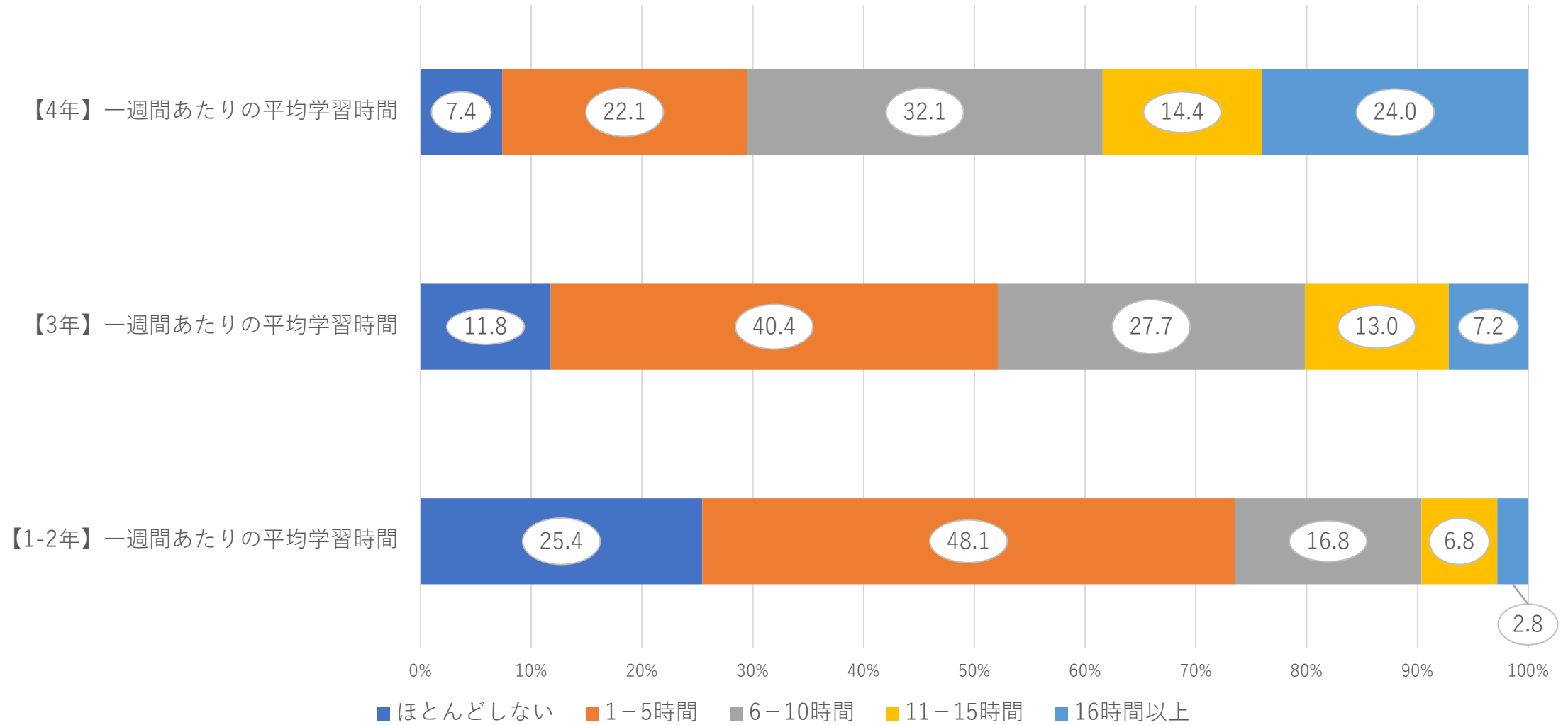
1. 授業の学習経験・学習態度



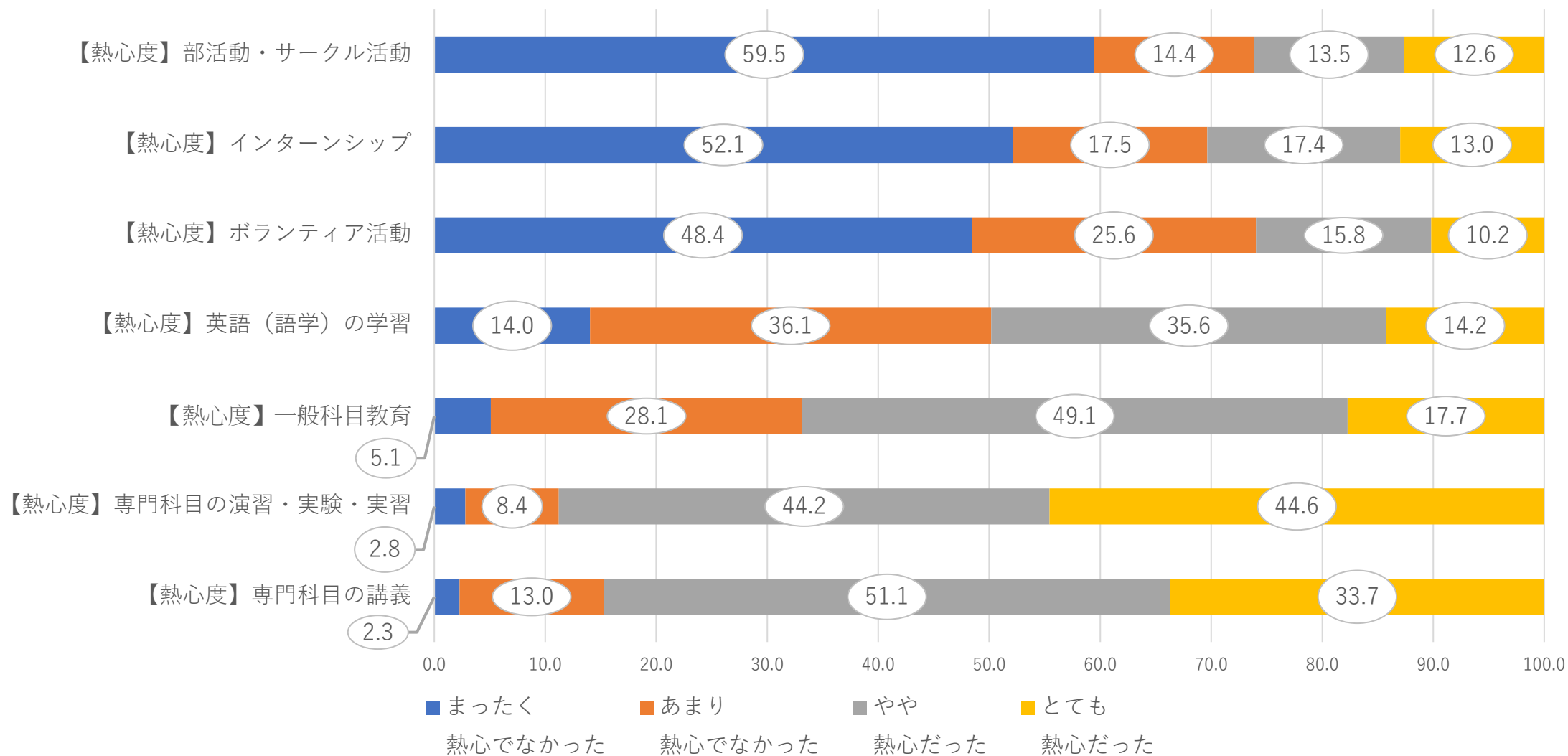
2. 【主体的・自律的】学習行動



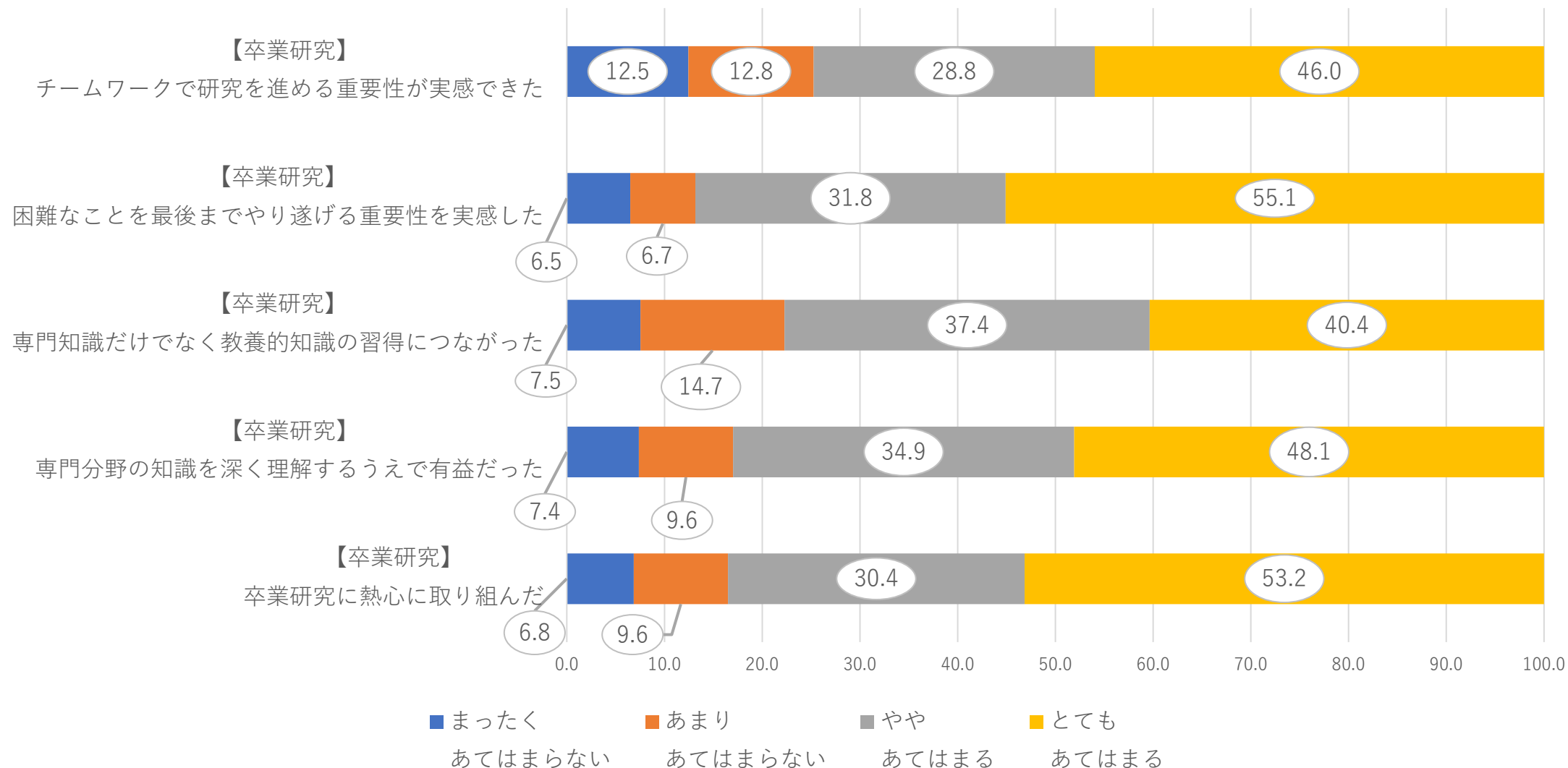
3. 1週間あたりの平均学習時間（自学自習時間）



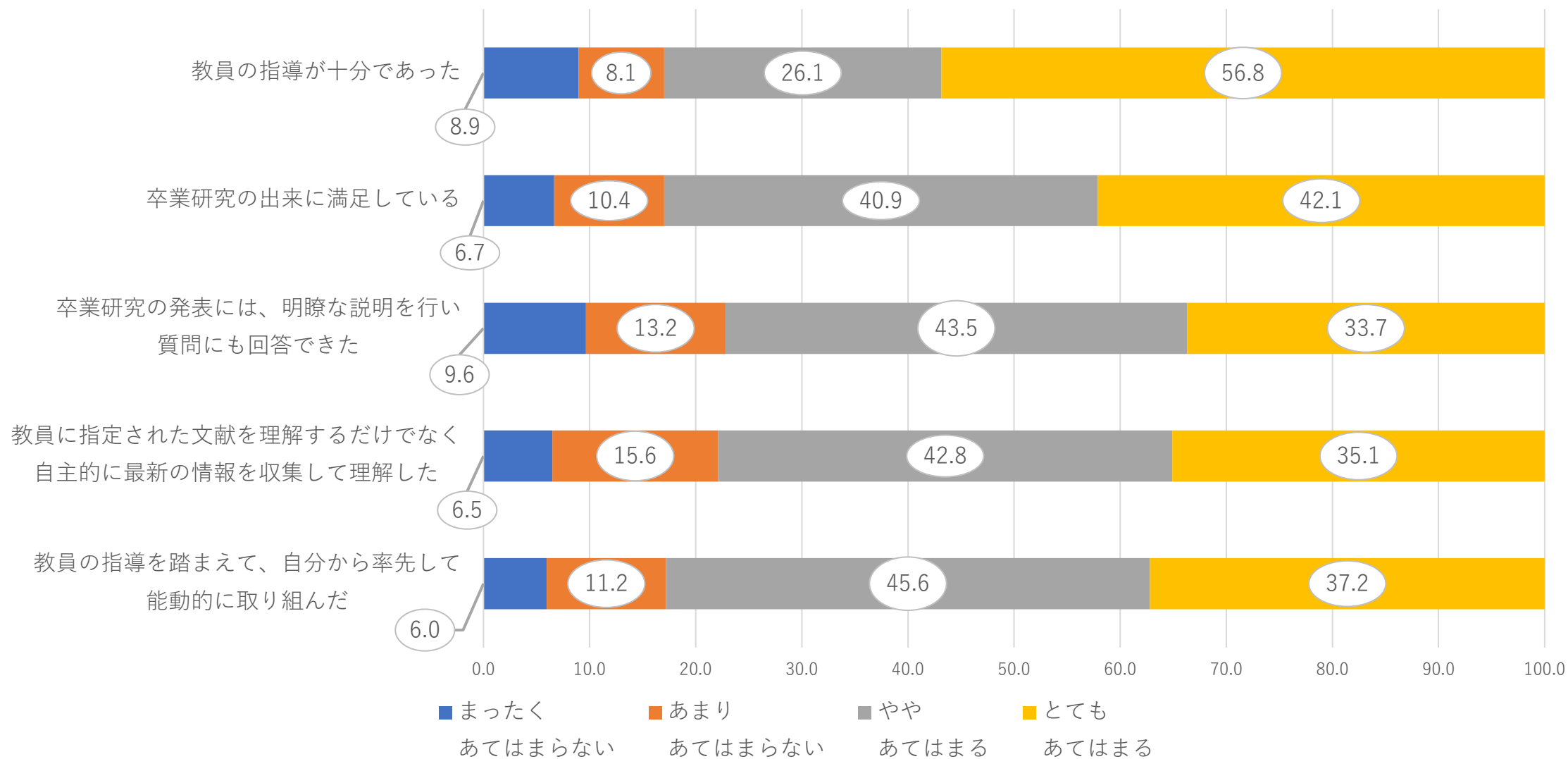
4. 【熱心度】 大学生活における意欲（学習意欲・正課外活動への意欲）



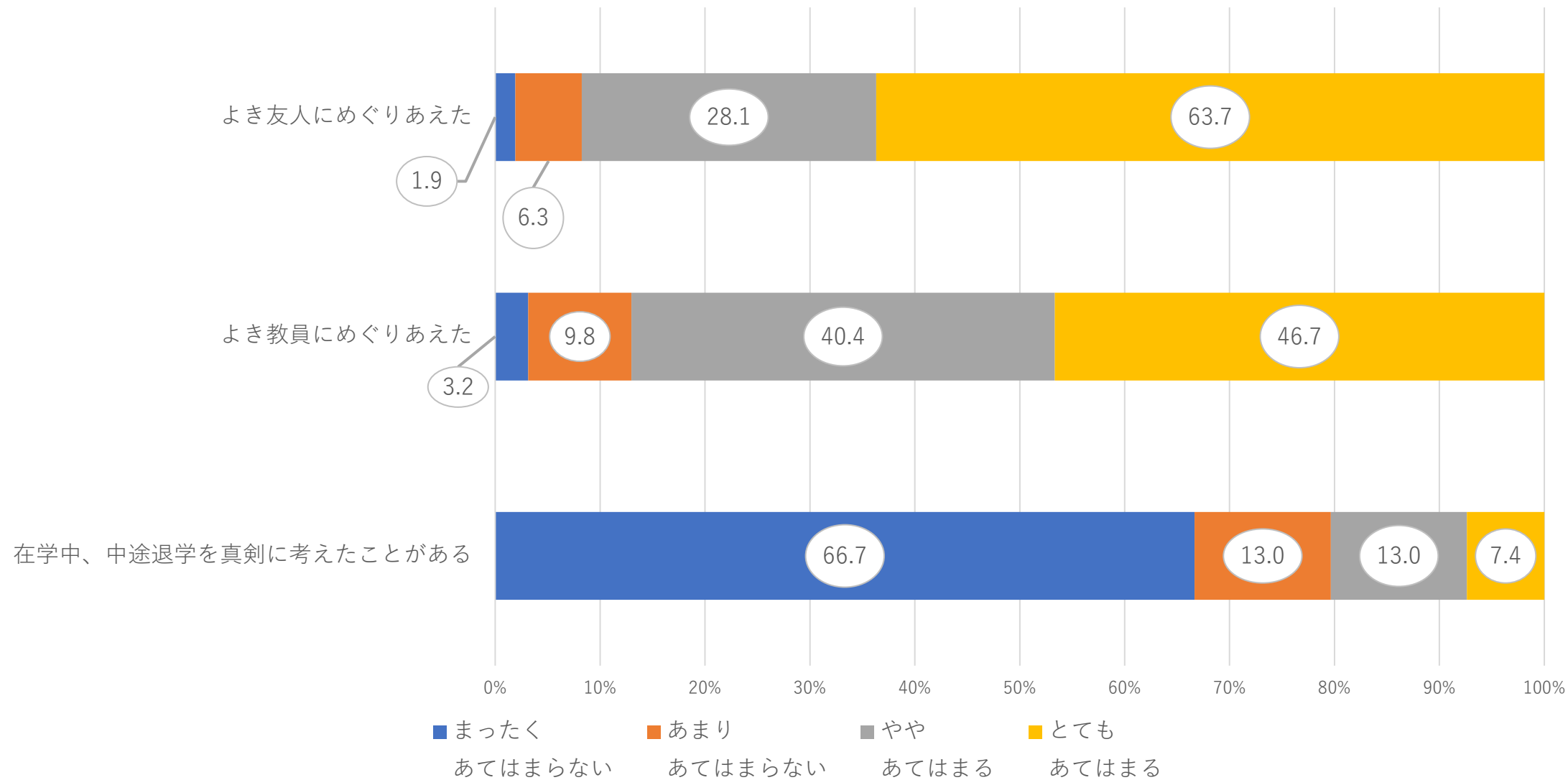
5. 卒業研究・学習経験



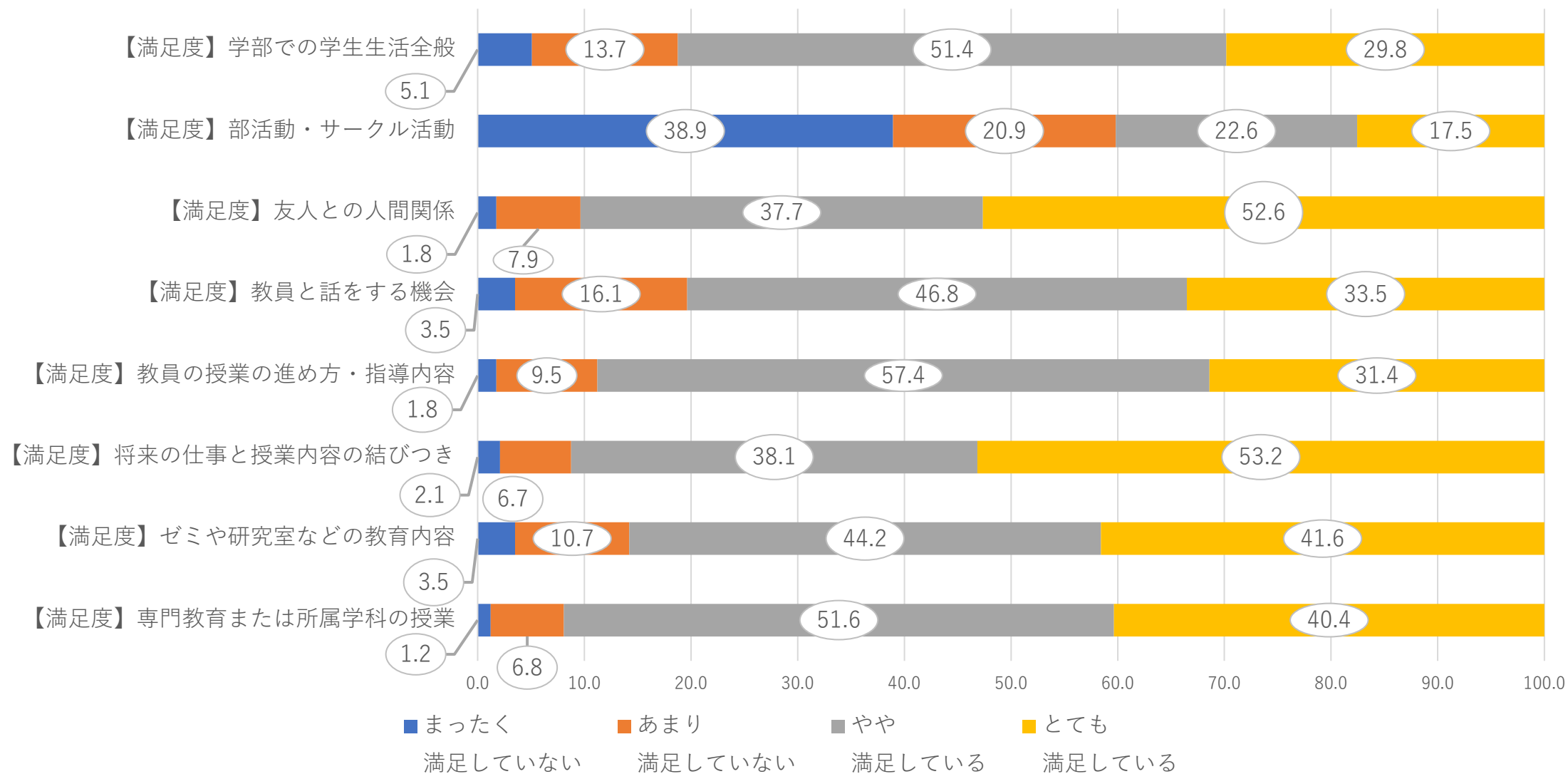
6. 卒業研究・学習行動



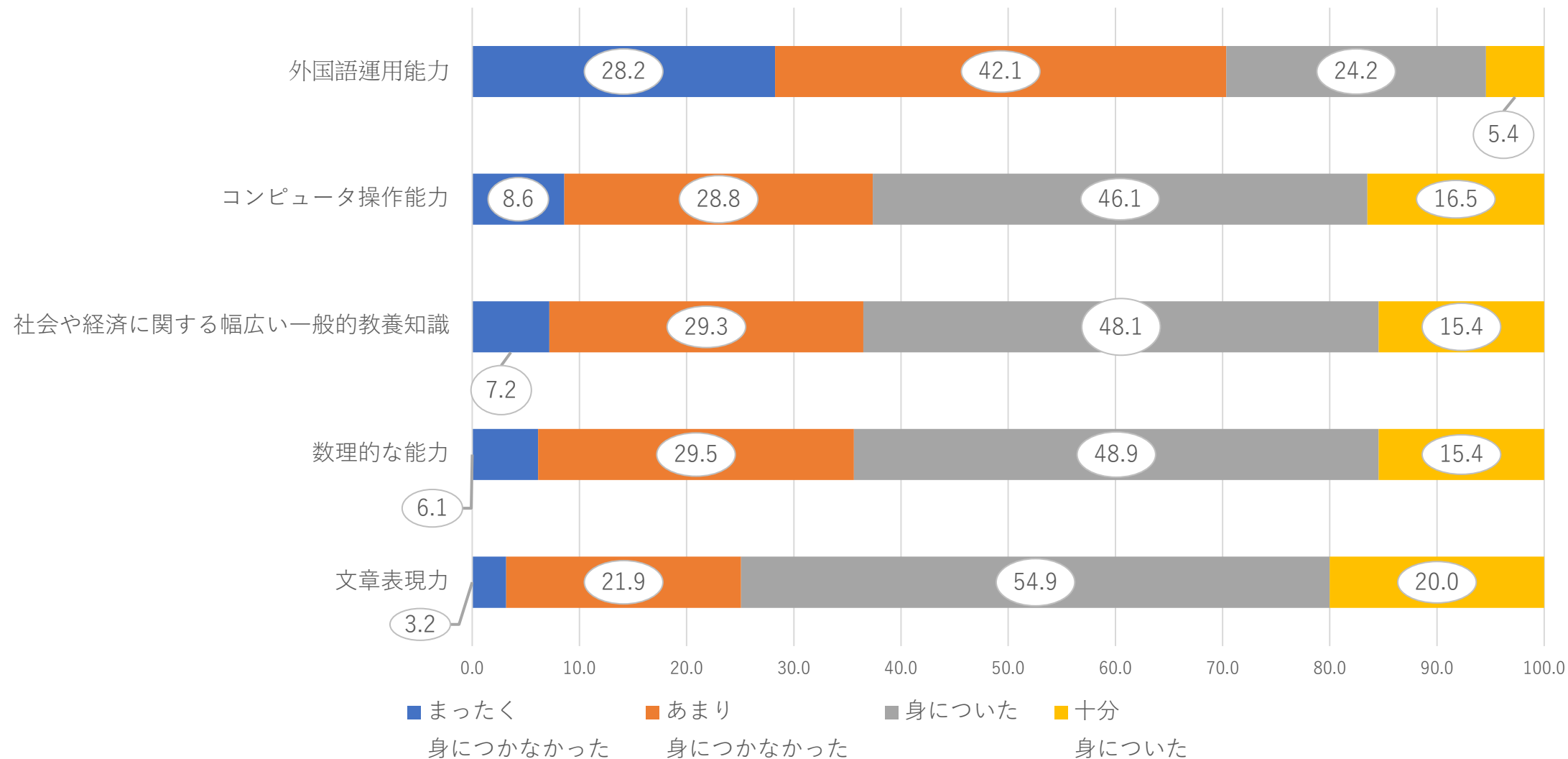
7. 人間関係等



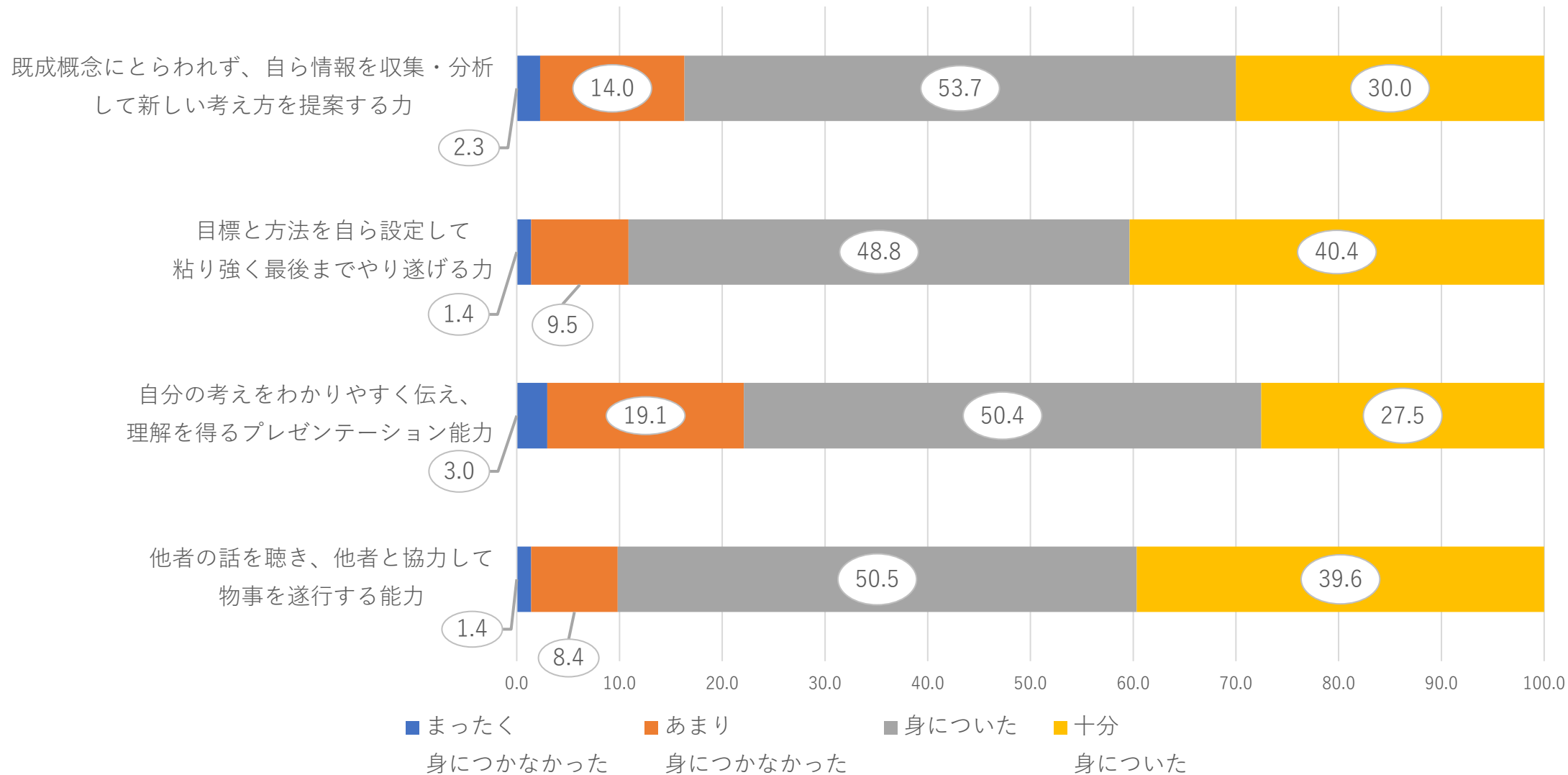
8. 大学生生活満足度



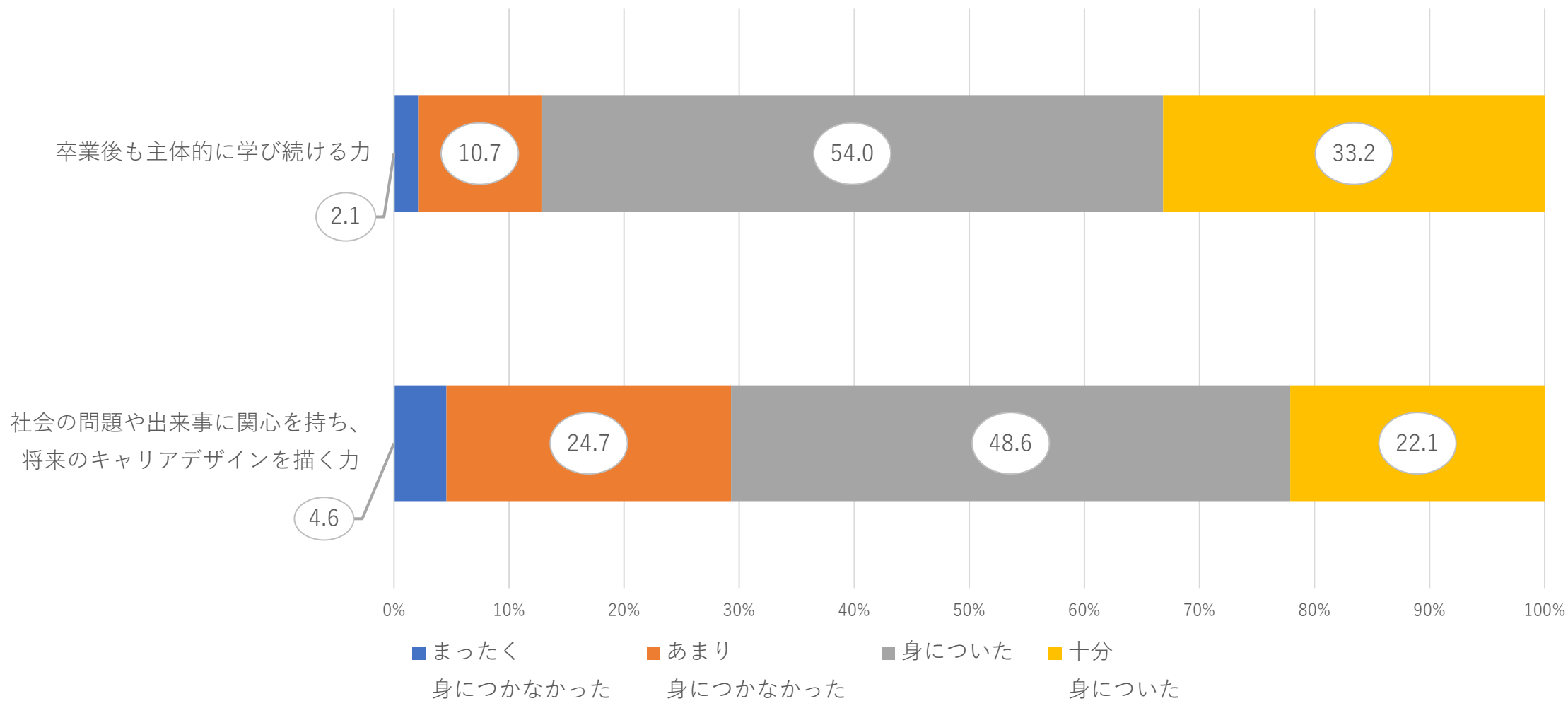
9. 知識・能力の獲得（１）（学士力：一般教養）



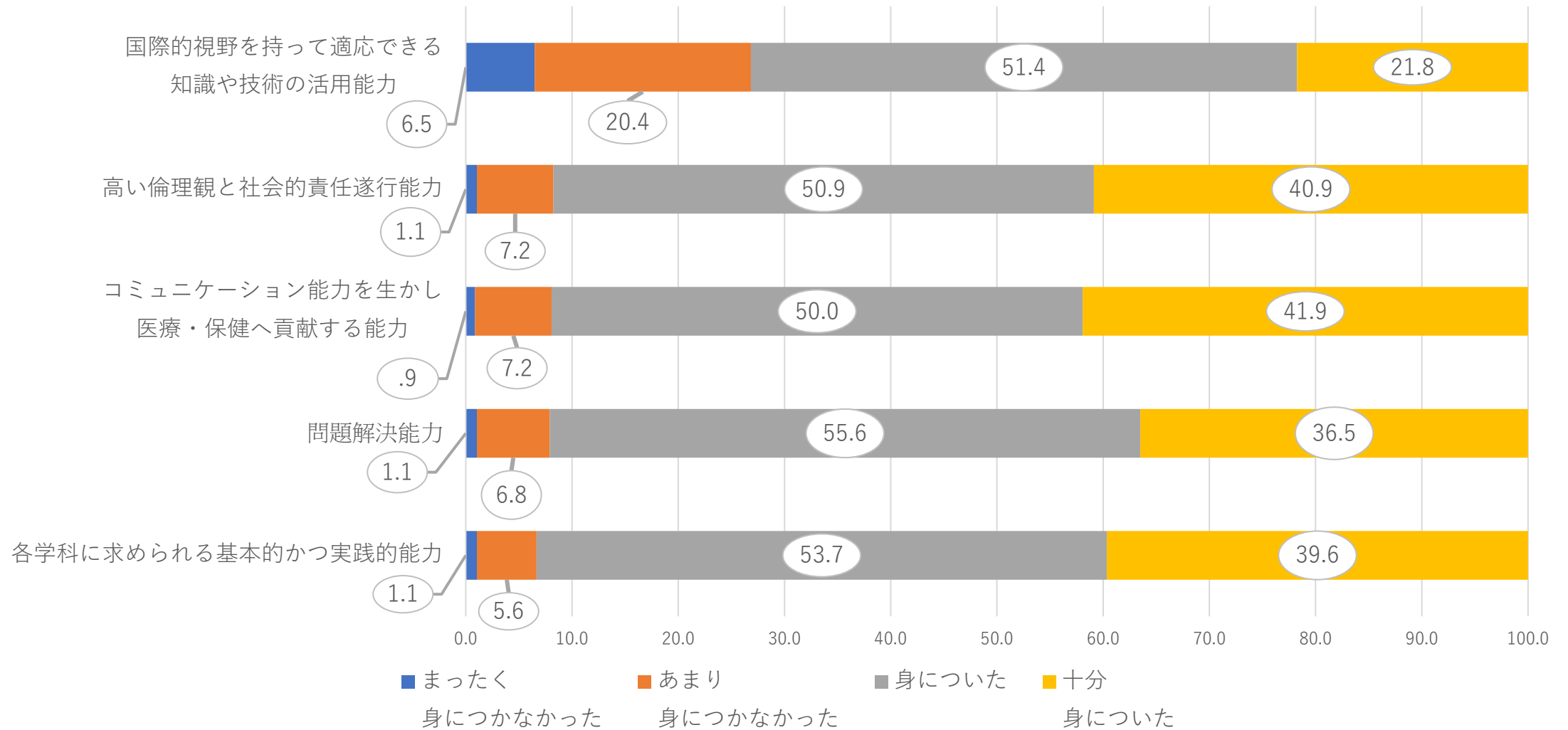
9. 知識・能力の獲得（2）（学士力：汎用的能力）



9. 知識・能力の獲得（3）（キャリア形成）



10. 【保健学部】ディプロマ・ポリシーに定められた能力の獲得



総評：保健学部

保健学部卒業生に対し「在学中の学習経験・学習態度、学習意欲、学修行動」、「大学での教育内容や学生生活への満足度」、そして「学部ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果が身についたか否か」のアンケートを行った。

その結果、在学中の学習経験・学習態度については「課されたレポートや課題は、少しでも良いものに仕上げようと努力した」と回答した卒業生は回答者全体の85.9%であり、「授業課題のために図書館の資料、文献やWeb上の情報を使用した」と回答した者は82.3%、「グループワークやディスカッションには積極的に参加した」と回答した者が78.2%であった。また、学習意欲において「一般科目」に対して意欲的だったと回答した者は、66.8%であったが、「専門科目の講義」に対して意欲的だったと回答した者は84.8%、「専門科目の演習・実験・実習」に対して意欲的だったと回答した者は88.8%であった。これらより卒業生は、在学中、主体的に意欲的に学習に取り組んだことが示された。また大学での授業が「将来の仕事と結びついた授業」であったこと、特に「専門科目」に意欲的であったことも示された。一方、「在学中の正課外活動への意欲」は低い結果であったが、これは4年間の学生生活のうち2～3年間は新型コロナウイルス感染症の流行により課外活動の制限があったためと考えられた。

「大学教育内容への満足度」については、「専門教育または所属学科の授業」に満足と回答した者は92.0%、「将来の仕事と授業の結びつき」に満足と回答した者が91.3%であった。また、「教員の授業の進め方・指導内容」に満足と回答した者は88.8%、「ゼミや研究室などの教育内容」に満足と回答した者は85.8%存在したことから教育内容への満足度は高かった。さらに「卒業後も主体的に学び続けることの大切さを感じた」と回答した卒業生が87.2%存在し、学部教育の成果は高いと判断できる。そして、「卒業研究・学習経験」については、「困難なことを最後までやり遂げる重要性を実感した」と回答した者は86.9%、「専門分野の知識を深く理解するうえで有益だった」と回答した者は83%存在したことから多くの卒業生が卒業研究を通して充実した学習経験をする機会が得られたと考えられた。しかしながら、「在学中、中途退学を真剣に考えたことがある」と回答した卒業生が20.4%存在しており、2割の学生が在学中に大学生活において何らかの挫折や悩みを抱えていたことが推察されるため今後の課題としたい。

次に「学部ディプロマ・ポリシーに定められた学修成果が身についたか否か」のアンケート結果からは、「高い倫理観と社会的責任遂行能力」、「コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力」、「問題解決能力」そして「各学科に求められる基本的かつ実践能力」については、各項目とも91.8%以上の卒業生が身に付いたと回答した。一方、「国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力」は73.2%の卒業生のみが身に付いたと回答した。この結果は、正課外活動への満足度の低さと同様に新型コロナウイルス感染症の流行や円安などの社会情勢により海外研修が制限されたことが影響していると考えられた。

これらのアンケート結果より、現在の学部教育は、将来、保健医療分野の職業において十分な実力を発揮できる人材を養成していると考えられた。